

江戸川区 中小企業の景況

令和4年4月～令和4年6月期

調査対象 製造業 156社 小売業 73社
サービス業 53社 建設業 56社

調査方法 面接聴取法

調査機関 (一社) 東京都信用金庫協会

分析作成 (株) 総合企画

本概要版は、令和4年6月上旬に調べた景気動向と、これから先の3か月間(令和4年7～9月期)をまとめたものです。
なお、業績等についてはDI値を中心に分析しています。

※ D. I (Diffusion Index) の略

D. I (ディーアイ) は、増加(又は「上昇」「楽」など)したと答えた企業割合から、減少(又は「下降」「苦しい」など)したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

	大きく上昇	上昇	やや上昇	横ばい	やや下降	下降	大きく下降
							
	好調 ←		普通			→ 不調	
製造業	20以上	19～10	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31以下
小売業	10以上	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31～-40	-41以下
サービス業	15以上	14～5	4～-5	-6～-15	-16～-25	-26～-35	-36以下
建設業	20以上	19～10	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31以下

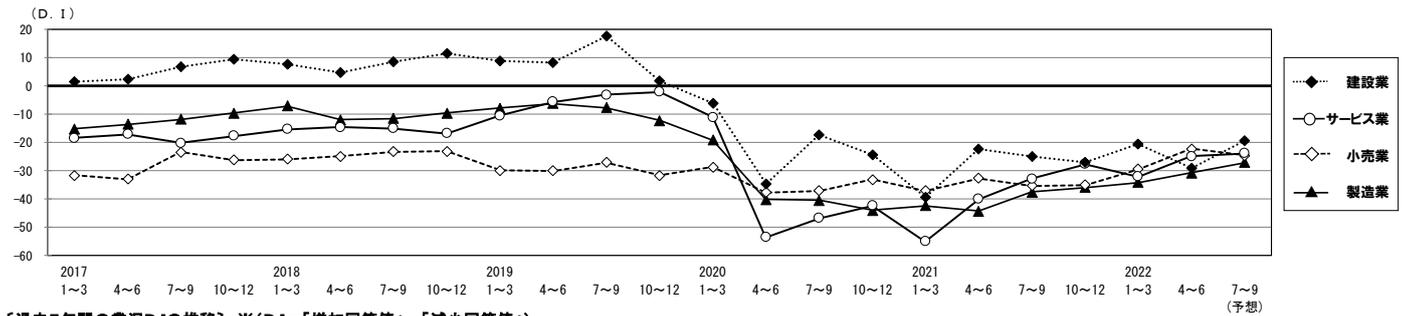
製造業	前期		-34.2	業況DI(Δ34.2→Δ30.8)は悪化傾向がやや弱まりました。売上額(Δ34.2→Δ22.2)と収益(Δ34.5→Δ24.2)は減収・減益傾向が大きく改善されました。 来期の業況(Δ27.1)は悪化傾向が多少弱まると見ており、売上額(Δ17.4)は減少傾向がやや改善し、収益(Δ18.1)は減益傾向が大きく改善すると予想しています。
	今期		-30.8	
	来期		-27.1	

小売業	前期		-29.5	業況DI(Δ29.5→Δ22.3)は悪化傾向が大幅に弱まりました。売上額(Δ20.7→Δ10.8)は減少傾向が大きく改善され、収益(Δ24.0→Δ15.8)も減益傾向が大幅に改善されました。 来期の業況(Δ24.7)は悪化傾向がわずかに強まり、売上額(Δ11.7)と収益(Δ17.2)は今期同様の水準で推移すると予想しています。
	今期		-22.3	
	来期		-24.7	

サービス業	前期		-32.2	業況DI(Δ32.2→Δ25.0)は悪化傾向が大きく改善されました。売上額(Δ24.9→Δ13.1)は減少傾向が大幅に弱まり、収益(Δ27.8→Δ22.8)も減益傾向が幾分弱まりました。 来期の業況(Δ23.9)は今期同様の水準が続くと予想しています。売上額(Δ12.7)と収益(Δ23.3)も今期並の減少・減益傾向が続くと予想しています。
	今期		-25.0	
	来期		-23.9	

建設業	前期		-20.6	業況DI(Δ20.6→Δ29.0)は悪化傾向が大幅に強まりました。売上額(Δ17.7→Δ26.2)と収益(Δ30.5→Δ36.7)も減少・減益傾向が大幅に強まりました。 来期の業況(Δ19.3)は悪化傾向がかなり持ち直し、売上額(Δ22.1)と収益(Δ32.6)も減少・減益傾向が幾分改善すると予想しています。
	今期		-29.0	
	来期		-19.3	

江戸川区の中小企業／業種別景況の推移



【過去5年間の業況D.I.の推移】※(D.I)=[増加回答値]-[減少回答値]

	2017	4~6	7~9	10~12	2018	4~6	7~9	10~12	2019	4~6	7~9	10~12	2020	4~6	7~9	10~12	2021	4~6	7~9	10~12	2022	4~6	7~9
	1~3				1~3				1~3				1~3				1~3				1~3		(予想)
製造業	-15.3	-13.6	-11.8	-9.7	-7.1	-12.0	-11.6	-9.6	-7.9	-6.2	-7.7	-12.3	-19.2	-40.2	-40.6	-44.0	-42.5	-44.3	-37.6	-36.0	-34.2	-30.8	-27.1
小売業	-31.7	-33.1	-23.4	-26.3	-25.9	-24.9	-23.3	-23.2	-29.9	-30.1	-27.2	-31.7	-28.7	-37.8	-37.1	-33.2	-37.2	-32.7	-35.4	-35.1	-29.5	-22.3	-24.7
サービス業	-18.5	-17.2	-20.3	-17.7	-15.4	-14.7	-15.1	-16.9	-10.5	-5.6	-3.2	-2.2	-11.1	-53.7	-46.8	-42.4	-55.1	-40.1	-32.9	-27.7	-32.2	-25.0	-23.9
建設業	1.5	2.4	6.7	9.5	7.6	4.6	8.4	11.5	8.7	8.3	17.6	1.8	-6.1	-34.8	-17.4	-24.5	-39.3	-22.3	-24.9	-27.0	-20.6	-29.0	-19.3

経営者から寄せられた声 (2022年4~6月)

【景況全般について】

- 一人ですべてをこなしているが、直近はまとまって仕事が決まったため少し忙しい状況。この仕事が終わるとまた仕事がないのではないかと危惧している。やはり原材料がかなり上がってきている。(製造業)
- 4月、5月は同行が鈍化していたが、6月以降客足が伸び、地方のお客も増えつつある。(小売業)
- 制限が解除されても、あまり変化は見られない。ただし、紹介での客数が増えてきている。(サービス業)

【受注・売上・単価・仕事量について】

- 宣伝広告関連の仕事のため、もともと月々安定した売り上げがある業界ではなく、クライアントの景気の状態に左右される。4月はたまたま展示会のまとまった仕事があったが、5、6月は静かな状況だった。取引先の工場も嘆いている状態で、クライアントの収益が上がり、宣伝広告費の予算がアップすることを願っている。(製造業)

【経営上の課題について】

- 求人は、ハローワークからの応募が最近多くなり人手不足が解消しつつある。ただ応募者の年齢が40歳前後に集中しているのが難点となっている。業況は、部品やポンプの入手が困難となっており、発注が受けられない状況となっている。このため、工事施工が出来ず、大幅な売り上げ減となっている。コロナ対策として借り入れた融資の返済も始まり、非常に厳しい状況となった。(建設業)

【経営改善等に向けての取組み】

- 材料が高騰しているので、必要以外の在庫は持たないようにしている。(製造業)
- 市場縮小が顕となり、更なる経費の削減等に対応している。(サービス業)
- 昨年と工事量・単価も同じだが、物価上昇を受けて少人数の従業員に少しだけ支払う単価アップを行った。(サービス業)
- ホームページを充実し、多くの方の目に触れる機会を作っている。(サービス業)

江戸川区の企業倒産動向 (2022年4~6月)

江戸川区の企業倒産動向

2022年4~6月期の江戸川区の倒産件数は、前期比14.3%増の8件(前期7件)、負債総額は前期比174.3%増の10億4百万円(前期3億66百万円)でした。

業種別にみると、件数では“建設業”が3件、“製造業”“卸売業”“小売業”“サービス業”“宿泊業、飲食サービス業”が各1件でした。負債総額は“製造業”が6億52百万円、“建設業”が1億70百万円、“サービス業”が90百万円でした。

(単位:件・百万円)

	前年同期 2021年4~6月		前期 2022年1~3月		今期 2022年4~6月	
	件数	負債総額	件数	負債総額	件数	負債総額
製造業	0	0	1	90	1	652
卸売業	1	23	1	10	1	50
小売業	1	10	0	0	1	20
サービス業	3	146	0	0	1	90
建設業	6	184	2	215	3	170
不動産業	0	0	0	0	0	0
情報通信業・運輸業	1	30	2	41	0	0
宿泊業、飲食サービス業	1	200	0	0	1	22
その他	1	10	1	10	0	0
合計	14	603	7	366	8	1,004

江戸川区 産業経済部 産業経済課 計画係

TEL:03-5662-9014(直通)